

父母の養育態度の形成と評価に関する研究

その3 父母の役割分担と育児不安

高橋種昭* 高野 陽** 小宮山 要***
新道幸恵** 大日向雅美****

要約 今年度は、幼稚園児と保育園児の父母を対象に、質問紙により、家事、育児など家庭における父母の役割分担の実態、性役割意識、育児不安などに関する調査を実施し、その実態を知ると共に、それらのものが背景要因とどのような関連をもっているかについて調べた。調査対象は、東京都、神奈川県、秋田県の3都県の6ヶ所の幼稚園と8ヶ所の保育園の父兄約1,000名である。

その結果、現在のわが国の家庭では、父母の役割分担や性役割意識に大きな変化がみられる事が判明した。着実に新しい男女平等の思想に基づいた家庭が築かれつつある事が、今回の調査結果にもはっきり示されている。夫婦の間においては、母親(妻)が父親(夫)の家庭や社会における働きや立場を前向きに理解している。又、母親の育児不安の背景要因としては、子どもの側の条件だけでなく、夫婦関係というものが非常に大きな働きをなしている。

見出し語 性役割、夫婦関係、育児不安

研究目的 家族成員の役割分担が明確である事は、家族生活の安定にとって非常に大きな要件となるものである。とくに父母の間はそのものについて混乱がみられる事は、子どもの養育を円滑に行う上で大きな障害となるものである。しかしながら、現在のわが国においては、家族の中での父母の役割分担については、以前のように明確なものがなく、そこには方式なり、意識の上で家族による違いが多くみられるのが実状である。今回の研究は、そうした子どもの養育についての父母の役割分担の現状を正しく把握すると共に、そのものが子どもの側の条件や、夫婦関係などと如何様にかかわっているかを明らかにする事を目的としたものである。又、

同時に、母親のもつ育児不安についても、そのものが父親(夫)の育児・家事参加の状態をはじめとする諸要因と如何様にかかわりをもっているかについて調査を行った。

研究方法 今回の研究にあたっては、前記の目的にそって、父親の育児・家事への参加状態を中心にした役割分担や性役割意識、夫婦関係、育児不安(母親のみ)などに関する質問調査用紙を作成し、東京都、神奈川県、秋田県の3地域の6ヶ所の幼稚園と8ヶ所の保育園の父兄約1,500名を対象に質問紙を配布し、父母それぞれ約1,000名から回答を得た。

今回の調査では、父母の間に、役割分担についての認識や意識に、どのような違いなり、ず

日本女子大学家政学部 (Faculty of Home Economics, Japan Women's University)

** 国立公衆衛生院 (The Institute of Public Health)

*** 桜美林短期大学 (Obilin Junior College)

**** 彰栄保育専門学校 (Shoei Kindergarten Teacher's Training School)

れがあるかをみるため、質問項目については同じ内容の項目を設け、配布にあたっては、父母それぞれが記入し、封をしたものを子どもに園まで持参させた。

自由業 18(1.8%)
 その他 51(5.0%)
 無 答 2(0.2%)
 計 1,020(100.0%)

調査対象

幼稚園児の父母 各 743名
 保育園児の父母 各 277名
 計 1,020名
 子どもの平均年齢 5.2歳
 子どもの人数平均 2.1人

父親の職業 会社員(管理職) 230(22.5%)
 会社員 375(36.8%)
 公務員 180(17.6%)
 自営業 164(16.1%)

結果

1. 父親の育児・家事参加状況

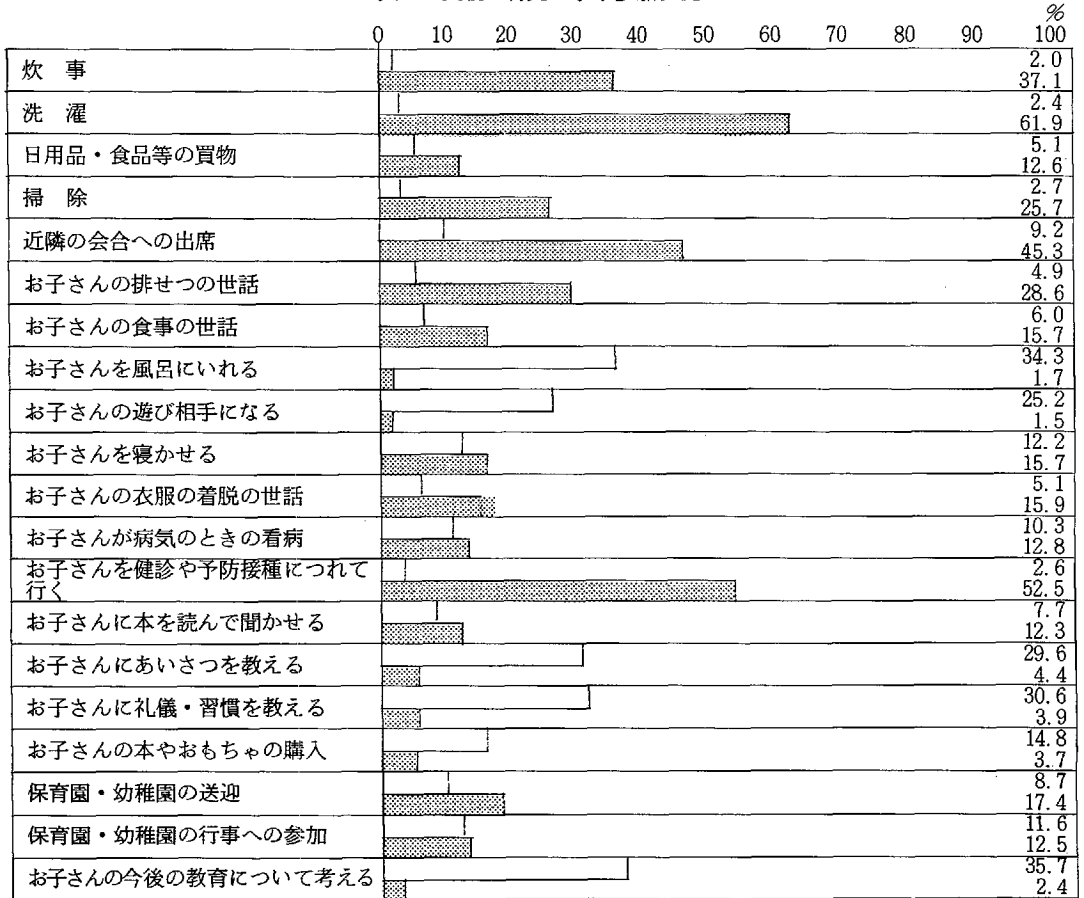
父親が現在育児や家事にどの程度参加しているかについては、今までにも調査がいろいろ行われており、以前に比べると多くの父親が、家事や育児に従事している事が明らかにされているが、今回の調査結果をみても、非常に多くの父親が参加している事が判る。(表1、図1)
 「炊事」に関しては、「ときどきする」を含めると、25%の父親が参加しており、「まったくしない」父親は37%という数字である。

表1 父親の家事・育児参加状況

F=1020 M=1019

	いつもしている%		ときどきする%		まれにすることがある%		まったくしない%	
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親
炊 事	2.0	2.3	21.6	19.7	39.3	37.2	37.1	40.4
洗 濯	2.4	2.5	10.5	8.4	24.2	20.9	61.9	67.5
日用品・食品等の買物	5.1	4.7	49.4	45.2	32.1	34.8	12.6	14.6
掃 除	2.7	1.6	31.3	26.1	38.4	36.1	25.7	35.5
近隣の会合への出席	9.2	10.7	20.6	20.6	23.3	23.2	45.3	43.4
お子さんの排せつの世話	4.9	5.2	33.1	35.5	31.7	32.9	28.6	25.0
お子さんの食事の世話	6.0	9.2	41.5	39.9	35.6	33.7	15.7	15.4
お子さんをお風呂にいれる	34.3	31.3	51.7	50.6	11.2	15.8	1.7	1.6
お子さんの遊び相手になる	25.2	29.1	62.4	56.3	10.2	13.1	1.5	0.8
お子さんを寝かせる	12.2	11.9	40.9	39.5	30.5	27.7	15.7	20.2
お子さんの衣服の着脱の世話	5.1	5.6	42.0	36.2	36.0	34.8	15.6	22.2
お子さんが病気のときの看病	10.3	8.7	38.1	37.1	37.0	33.3	12.8	20.1
お子さんを健診や予防接種に連れていく	2.6	2.0	14.1	11.0	24.2	16.6	57.5	69.4
お子さんに本を読んで聞かせる	7.7	7.5	41.1	37.5	38.1	34.2	12.3	20.3
お子さんにあいさつを教える	29.6	22.8	44.5	46.0	20.7	21.0	4.4	9.6
お子さんに礼儀・習慣を教える	30.6	25.2	46.7	44.7	17.5	22.4	3.9	6.9
お子さんの本やおもちゃの購入	14.8	15.3	58.4	50.6	21.6	27.2	3.7	5.9
保育園・幼稚園の送迎	8.7	9.2	34.5	35.4	38.3	35.4	17.4	19.2
保育園・幼稚園の行事への参加	11.6	13.8	38.8	38.5	35.7	31.6	12.5	15.1
お子さんの今後の教育について考える	35.7	25.9	47.9	45.5	13.8	19.8	2.4	7.7

図1 父親の育児・家事参加状況



□ いつもしている

▨ まったくしない

「洗濯」に関しては、「全くしない」という父親が非常に多いのが特徴である。62%のものが「全くしない」としている項目は他にはない。

「日用品や食料品等の買物」はするものとしていないものとが約半数宛である。「全くしない」ものは13~15%という数である。

「家の掃除」は、「全くしない」ものが父親親の報告では26%、母親の報告では36%と他の項目の場合と異なり10%もの差がそこにみられる。

「近隣の会合への出席」は、やはり、母親委せの父親が多く、45%の父親は「全く出席しない」と答えている。

「子どもの排泄の世話」は、「全くしない」も

のが29%であり、40%の父親は世話をしていると答えている。この場合、今回の調査対象が幼児といっても3歳以上の子どもの親であり、乳児期の子どもの場合ならば更に高い数字が考えられる。

「子どもの食事の世話」の場合も同様であり、「全くしない」ものが16%、「いつもする」が6%という数字であるが、子どもの年齢を考えればこの数字は妥当な数字といえよう。

「入浴の世話」については、「全くしない」ものは僅か2%という少ない数字で、父親の参加が最も多くみられる。文字通り父子の肌のふれ合いの機会である入浴の機会がこのように多い事は、他の事では参加できないのでせめて入浴

でも、という父親の親心の表れとみる事もできよう。

「子どもの遊び相手」の場合は、やはり「いつもしている」と答えているものが25%と多く、「全くしない」ものは僅か1%という数字である。「ときどき」を含めれば、90%近くの父親は子どもの遊び相手になっている事になる。「まれにする事がある」というものの数も従って10%と少なく、殆んど父親は子どもの遊び相手になってやっている。

「子どもの就寝の世話」となると、入浴や遊び相手に比べれば少ないが、この場合も、「ときどき」を含めれば50%をこす父親が世話をしており、いつもその役割を分担している父親が10%をこえている。

「子どもの衣服の着脱の世話」では、参加しているものは半数弱の父親であり、しない父親の数も多く、「全くしない」ものが16%（母親の報告では22%）である。

「病気の時の看病」については、子どもの健康状況によって大いに異なるので、この数字からは何とも言えないが、「全くしない」とするものが13%（母親の報告では20%）である。

「乳幼児健診や予防接種につれてゆく」父親は少なく、「全くしない」父親が非常に多い。しかし、この場合も、そのものが行われるのが平日である事を考えれば、仕事をもつ父親の場合、当然の数字ともいえる。

「子どもに本を読んで聞かせてやる」という教育的役割については、「いつも」と「ときどき」を合計した数字が49%と約半数であり、入浴や遊び相手に比べると少ない。

「子どもに挨拶を教える」と「礼儀習慣を教える」は、大体同じような数であり、約3割の父親が「いつも教えている」と答えている。「全くしない」とするものは3~4%という少ない数である。この結果からは、そうしたしつづ的な事に父親の多くが関心をもち、子どもへ積極的に対応しているといえよう。

「子どもの本や玩具の購入」については、この場合も「全くしない」父親は僅かであり、多くの父親は子どもの本や玩具を買ってやっている。

「保育園や幼稚園の送迎」については、「全くしない」ものは17%、「いつもしている」もの9%、「ときどきするもの」35%という数字であり、この場合も仕事をもつ父親としては当然の数字といえよう。

「園の行事への参加」は、やはり「いつもしている」ものは12%で、「全くしない」が13%おり、大体において母親に委せているケースが多いといえる。

「子どもの今後の教育について考える」については、やはり多くの父親が積極的に加わっており、「全くしない」ものは2%というごく僅かな数字である。

以上、父親の家事・育事への参加状況についてみたわけであるが、大体においてよく参加しているといえる。もちろんこうした役割分担は、母親（妻）の就労状況によって異なるのは当然であり、その事については後で述べる。

又、父親と母親の間の報告のずれであるが、概して、「全くしない」という答では、父親自身の報告より、母親（妻）の報告の方が厳しい評価を行っている。しかし、両者の報告に大きな差のみられるものは少なかった。

2. 父親の育児・家事参加と関連要因

次に、父親の育児・家事参加が、その背景要因とどのようにかかっているかについて検討を行った。関連の有無については、参加の状態の4段階について、いつも（4点）ときどき（3点）まれに（2点）全くしない（1点）というように得点化し、その平均点を算出して有意差を検討した。（表2-1）

a. 子どもの性別との関連

子どもが男の子か女の子かによって父親の参加度が変わるかについてみたが、その結果は1項目のみ差があり、他の項目については全て有意差はみられなかった。（表2-2）差がみられたのは、「本を読んでやる」という項目であり、女の子の場合の方が父親の参加度は高い。

b. 子どもの年齢別との関連

子どもの年齢と父親の参加度との関連については、やはり多くの項目に有意差がみられた。そして、差のみられた項目は「買物」を除き、

表2-1 父親の育児・家事参加協力と関連要因

項目	要 因							
	子どもの性別	子どもの年齢別	子どもの人数別	子どもの出生順位別	父親の職業別	父親の年齢別	両親の同居別	幼稚園・保育所別
炊 事		**			**		**	
洗 濯		**	**		**		**	
日用品・食品等の買物		**		**		**	**	
掃 除					**			*
近隣の会合への出席				*	**		**	**
お子さんの排せつの世話		**		**	**	**		
お子さんの食事の世話		**			**	**		**
お子さんを風呂にいれる		*		**	*	*		**
お子さんの遊び相手になる			*	**		**	*	
お子さんを寝かせる		*		**		*		**
お子さんの衣服の着脱の世話				**		**		
お子さんの病気のときの看病				**		**		*
お子さんを健診や予防接種に連れていく				*		**		*
お子さんに本を読んで聞かせる	**		**	**	**			
お子さんにあいさつを教える			*	**				
お子さんに礼儀・習慣を教える				**				
お子さんの本やおもちゃの購入			**	**		*		
保育園・幼稚園の送迎						*		*
保育園・幼稚園の行事への参加						**		**
お子さんの今後の教育について考える								

* P < .05 ** P < .01

表2-2 子どもの性別

・本を読む	平均値	標準偏差
男 児	2.388	0.824
女 児	2.515	0.781
	P < .01	

他は全て身近の世話に関したものである。「炊事」「洗濯」「排泄の世話」「入浴の世話」「寝かしつけ」の6項目についてみると、3歳と4歳とではその数が逆転しているものもあるが、5～6歳になるとどの項目も父親の参加度は低くなっている。「洗濯」のように全くしない父親が非常に多い項目においても、3歳の場合は参加度がそれ以降の年齢段階の子どもをもつ父親に比べるときわ立って高くなっている。この結

果からも4歳を境にして父親の育児へのかかわり方が変化している事が判る。(表2-3)

c、子どもの人数別との関連

子どもの人数によって父親の参加度がどのように変わるかをみたわけであるが、5つの項目について有意差がみられた。(表2-4)

しかし、当初予想していた子どもの人数が増えれば父親の参加度が高くなるという予想は外れ、人数が多い場合の方が参加度は低くなっている。しかし、この場合、子どもの人数が多くなるという事は、同時に父親の年齢が高くなるに伴って生じる社会的な地位や役割の変化などともかかわっているため、単純に人数の増加と参加度の減少とを結びつけて考える事はできない。

表 2-3 子どもの年齢別

	平均値	標準偏差
• 炊 事		
3 歳	2.188	0.808
4 歳	2.016	0.870
5 歳～6 歳	1.841	0.800
	P < .01	
• 洗 濯		
3 歳	2.813	0.726
4 歳	2.582	0.725
5 歳～6 歳	2.433	0.788
	P < .01	
• 買い物		
3 歳	2.813	0.726
4 歳	2.582	0.725
5 歳～6 歳	2.433	0.788
	P < .01	
• 排せつの世話		
3 歳	2.419	0.794
4 歳	2.426	0.839
5 歳～6 歳	2.070	0.900
	P < .01	
• 食事の世話		
3 歳	2.594	0.701
4 歳	2.603	1.084
5 歳～6 歳	2.347	1.084
	P < .01	
• 風呂にいれる		
3 歳	3.129	0.751
4 歳	3.332	0.663
5 歳～6 歳	3.172	0.702
	P < .01	
• 子どもを寝かせる		
3 歳	2.774	0.791
4 歳	2.625	0.876
5 歳～6 歳	2.561	0.907
	P < .01	

表 2-4 子どもの人数別

	平均値	標準偏差
• 洗 濯		
1 人	1.728	0.861
2 人	1.517	0.780
3 人以上	1.462	0.710
	P < .01	
• 遊び相手になる		
1 人	3.198	0.621
2 人	3.152	0.645
3 人以上	3.032	0.596
	P < .05	

	平均値	標準偏差
• 本を読む		
1 人	2.604	0.820
2 人	2.475	0.808
3 人以上	2.312	0.786
	P < .01	
• 挨拶を教える		
1 人	3.123	0.821
2 人	3.030	0.820
3 人以上	2.897	0.837
	P < .01	
• 本や玩具の購入		
1 人	3.000	0.741
2 人	2.886	0.674
3 人以上	2.740	0.743
	P < .01	

d、子どもの出生順位別との関連

子どもの出生順位との関係についてみると、関連をもつ項目が非常に多く、13項目に有意差がみられる。そして「近隣の会合への出席」を除いて、他はみな第一子の場合参加度は高くなっている。つまり、身のまわりの世話をはじめとして、子どもの教育や社会化に関する役割などの場合、父親は第一子に多くかかわっている事になるわけである。(表 2-5)

しかし、この事も、単に第二子になると父親は面倒をみなくなると解釈することはできず、他の要因との関連の中で考える必要もあろう。

e、父親の年齢別との関連

父親の年齢と参加度との関連をみると、12項目において年齢差がみられ、若い年齢の父親が全ての項目において高い参加度を示している。(表 2-6)

そして、40歳台の父親の場合は、全ての項目において最低の参加度であり、育児・家事への関与は極めて低いといえる。もちろんこの場合その事を単に父親の年齢とだけ結びつけて考える事はできず、当然、子どもの側の年齢や、父親の社会生活に関した諸要因などと関連させて考えねばならぬのは当然である。父親の年齢が高いという事は職業生活においても20歳台の若い父親とは違った種々の制約があるはずである。又、年齢差によってみられる家族観や育児観などの違いも当然参加度の高低にかかわっているはずであり、40歳台の父親の参加度の低さ

表 2-5 子供の出生順位別

	平均値	標準偏差
• 買い物		
第 1 子	2.537	0.748
第 2 子以降	2.417	0.803
	P < .01	
• 会合への出席		
第 1 子	1.856	1.023
第 2 子以降	2.008	1.006
	P < .05	
• 排せつの世話		
第 1 子	2.308	0.869
第 2 子以降	1.992	0.901
	P < .01	
• 風呂にいれる		
第 1 子	3.270	0.677
第 2 子以降	3.140	0.708
	P < .01	
• 遊び相手になる		
第 1 子	3.215	0.629
第 2 子以降	3.039	0.619
	P < .01	
• 子どもを寝かせる		
第 1 子	2.602	0.883
第 2 子以降	2.410	0.906
	P < .01	
• 衣服の着脱の世話		
第 1 子	2.510	0.707
第 2 子以降	2.232	0.819
	P < .01	
• 子どもの看病		
第 1 子	2.539	0.841
第 2 子以降	2.401	0.848
	P < .01	
• 健診や予防接種につれて行く		
第 1 子	1.676	0.863
第 2 子以降	1.553	0.784
	P < .05	
• 本を読む		
第 1 子	2.571	0.779
第 2 子以降	2.334	0.816
	P < .01	
• 挨拶を教える		
第 1 子	3.091	0.804
第 2 子以降	2.922	0.838
	P < .01	
• 礼儀・習慣を教える		
第 1 子	3.129	0.771
第 2 子以降	2.986	0.824
	P < .01	

	平均値	標準偏差
• 本や玩具の購入		
第 1 子	2.942	0.683
第 2 子以降	2.781	0.716
	P < .01	

表 2-6 父親の年齢別

	平均値	標準偏差
• 買い物		
20歳台	2.733	0.712
30歳台	2.504	0.762
40歳台	2.275	0.833
	P < .01	
• 排せつの世話		
20歳台	2.533	0.909
30歳台	2.184	0.884
40歳台	1.876	0.885
	P < .01	
• 食事の世話		
20歳台	2.783	0.907
30歳台	2.423	1.067
40歳台	2.207	0.823
	P < .01	
• 風呂にいれる		
20歳台	3.457	0.615
30歳台	3.199	0.681
40歳台	3.140	0.762
	P < .05	
• 遊び相手になる		
20歳台	3.370	0.638
30歳台	3.127	0.625
40歳台	3.028	0.645
	P < .01	
• 子どもを寝かせる		
20歳台	2.761	0.889
30歳台	2.506	0.889
40歳台	2.407	0.948
	P < .05	
• 衣服の着脱の世話		
20歳台	2.652	0.813
30歳台	2.397	0.793
40歳台	2.204	0.832
	P < .01	
• 子どもの看病		
20歳台	2.783	0.930
30歳台	2.472	0.834
40歳台	2.360	0.864
	P < .01	
• 健診や予防接種につれて行く		
20歳台	2.109	0.914
30歳台	1.607	0.821

40歳台	1.494	0.778
		$P < .01$
本や玩具の購入	平均値	標準偏差
20歳台	3.089	0.709
30歳台	2.857	0.696
40歳台	2.782	0.719
		$P < .05$
・園の送迎をする	平均値	標準偏差
20歳台	2.609	0.872
30歳台	2.363	0.870
40歳台	2.221	0.845
		$P < .01$
・園の行事への参加	平均値	標準偏差
20歳台	2.500	0.995
30歳台	2.549	0.845
40歳台	2.304	0.855
		$P < .01$

の背景には、若い父親のように育児や家事への参加を当然とするような意識の欠如のようなものもあるはずである。とくに最近のように世代による価値観のずれが大きい時代においては、この結果は当然ともいえよう。

f、父親の職業別との関連

父親の職業によって育児や家事への参加度が異なる事も考えられたので、会社員、公務員、自営業、自由業、その他に分類して、その関連をみたところ、8つもの項目について職業による有意差がみられた。(表2-7)

その内容をみると、家事や子どもの世話に関するものが殆んどであり、教育やしつけに関したのものには有意差はみられない。中でも目立つのは会社員の中の管理職にあるものの参加度の低さである。有意差のあった項目についても、その殆んどが最低である。他の職業については項目による違いがみられ一様でない。会社員、公務員のような俸給生活者と自営業や自由業とを比べてみると、公務員の場合、「風呂に入れる」「本を読む」の2項目において最も高い参加度がみられるし、自営業の場合には、「家の掃除」「近隣の会合への出席」などの項目において、他の職業の父親に比べて高い参加度を示している。

これらの結果からみても、管理職にある父親のように全ての点で参加度の低い例もあるが、

表2-7 父親の職業別

・炊事	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	1.755	0.743
会社員	1.906	0.794
公務員	1.933	0.834
自営業	1.823	0.841
自由業	2.222	0.853
その他	2.216	0.824
		$P < .01$
・洗濯	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	1.406	0.684
会社員	1.530	0.757
公務員	1.629	0.846
自営業	1.448	0.711
自由業	1.706	0.072
その他	1.918	0.965
		$P < .01$
・掃除	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	2.009	0.822
会社員	2.136	0.801
公務員	2.364	0.807
自営業	2.883	0.789
自由業	2.222	0.975
その他	2.200	0.849
		$P < .01$
・会合への出席	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	1.801	0.978
会社員	1.841	0.980
公務員	2.043	1.108
自営業	2.150	1.001
自由業	2.059	1.162
その他	1.922	0.946
		$P < .01$
・排せつの世話	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	2.000	0.874
会社員	2.167	0.879
公務員	2.170	0.901
自営業	2.196	0.965
自由業	2.059	0.872
その他	2.420	0.827
		$P < .05$
・食事の世話	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	2.229	0.802
会社員	2.412	0.792
公務員	2.413	0.844
自営業	2.399	0.890
自由業	3.722	4.475
その他	2.592	0.726
		$P < .01$
・風呂にいれる	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	3.083	0.698
会社員	3.209	0.689
公務員	3.300	0.674

	自営業	3.267	0.712
	自由業	3.167	0.833
	その他	3.112	0.689
		P < .05	
・本を読む	平均値		標準偏差
	会社員(管理職)	2.301	0.808
	会社員	2.473	0.782
	公務員	2.611	0.819
	自営業	2.421	0.811
	自由業	2.278	0.811
	その他	2.490	0.849
		P < .01	

他の職業の父親の場合には、家庭に在宅している時間の長短などとの関係で、その関与の仕方に違いはみられるが、それぞれが許される範囲でかかわっているといえよう。

g、両親との同居の別との関係

両親(祖父母)との同居が、父母の役割分担をどう変えるかについてみたのが表2-8であるが、同居による違いは5項目についてみられた。核家族の父親の参加度が高いのは、「洗濯」「買物」「炊事」であり、同居家族の父親の参加度の高い項目は、「近隣の会合への出席」と「遊び相手になる」の2項目である。やはり、家事のような仕事は核家族に多く、「会合への出席」

表2-8 両親との同居の別

・洗濯	平均値	標準偏差
	核家族	1.569 0.783
	同居	1.429 0.755
		P < .01
・買物	平均値	標準偏差
	核家族	2.508 0.779
	同居	2.388 0.774
		P < .05
・会合への出席	平均値	標準偏差
	核家族	1.846 0.976
	同居	2.149 1.086
		P < .01
・遊び相手になる	平均値	標準偏差
	核家族	3.096 0.638
	同居	3.182 0.617
		P < .05
・炊事	平均値	標準偏差
	核家族	1.957 0.826
	同居	1.782 0.756
		P < .01

や「遊び相手」のような時間的余裕を必要とするような事に関しては、同居家族の方がその事を可能としているのであろう。

h、幼稚園、保育園の別との関連

この事は、母親の就労とも当然関連があり、保育園児の父親の場合、その参加度が高い事が考えられたが、9項目において差がみられた。(表2-9)その内容は、表に示す如く子どもの

表2-9 幼稚園・保育園の別

・掃除	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.002 0.804
	保育園児の父親	2.152 0.795
		P < .01
・会合への出席	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	1.555 0.831
	保育園児の父親	2.462 1.131
		P < .01
・食事の世話	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.300 0.812
	保育園児の父親	2.557 1.690
		P < .01
・風呂に入れる	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	3.077 0.699
	保育園児の父親	3.263 0.728
		P < .01
・子どもを寝かせる	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.336 0.901
	保育園児の父親	2.669 0.872
		P < .01
・子どもの看病	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.398 0.849
	保育園児の父親	2.571 0.799
		P < .05
・健診や予防接種につれて行く	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	1.489 0.733
	保育園児の父親	1.633 0.861
		P < .05
・園の送迎をする	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.121 0.795
	保育園児の父親	2.304 0.800
		P < .05
・園の行事への参加	平均値	標準偏差
	幼稚園児の父親	2.527 0.823
	保育園児の父親	2.298 0.856
		P < .01

世話的な役割（入浴や食事・就寝の世話）においてとくにはっきりした差がみられた。又、「近隣の会合への出席」においては、保育園児の父親、「園の行事への参加」については幼稚園児の父親が高い参加度を示していた。

こうした違いは、母親の就労による家庭生活の違いを考えれば繰返し述べるように当然であるが、近隣の会合への出席には消極的で、幼稚園の行事へは自分で出るという幼稚園児の父親の社会、教育意識は、やはり保育園児の父親とは大分異なるものがあるといえよう。

3. 父親の育児・家事に関する協力意識

父親の育児や家事に関する協力について、父親（夫）母親（妻）がそれぞれにどのようにみているかを示したのが表3である。

父親として自分は十分に育児や家事に協力している、と答えている父親は9%である。しかし母親（妻）は15%のものが「十分やっている」と答えている。つまり、母親の方が高い評価を与えているわけである。

答の中で多いのは、「必ずしも十分でないが精神的には精一杯協力している」というものと、「必ずしも十分ではないが仕事が忙しくて無理である」という2つの答である。

又、「家事や育児は母親（妻）の役割と考えているので、協力や参加は必要はないと思っている」というものが父親に4%いるが、母親の場合は18%と4倍以上の数である。つまり、この答に関しては、夫より妻の方が従来からの家

庭における母親や妻の役割をそのまま認めている事になる。

その他、「妻がよくやっているから自分は参加や協力はしないでよい」と思っている父親も12%いるが、こうした父親も従来のわが国の家族役割をそのまま認めているケースとみてよからう。

4. 父親の役割遂行意識

父親は、家庭においては父親として、あるいは夫としての役割を果していると同時に、外にあっては社会人として、あるいは職業人としての役割を果しているわけである。それらの役割をどのように果していると自分では思っているか、という事をきいた結果を示したのが表4である。

まず、父親としての評価をみると、自分自身「非常によい父親である」としているものはさすがに少なく11%という数字であり、「どちらかといえばよい」と答えたものが68%と圧倒的に多い。「よくない」と評価している父親は20%である。

夫としての評価についてみると、「非常によい」とするものは13%、「どちらかといえばよい」が61%で、「よくない」とするものは24%であり、父親の場合に比べるとやや低い評価をしている。

社会人としての評価は11%が「非常によい」とし、73%が「どちらかといえばよい」とし、かなり高い評価をしており、「よくないとする

表3 父親の育児・家事に関する協力意識%

F=1020 M=1019 MA

	父親 %	母親 %
十分やっている	9.2	15.4
必ずしも十分ではないが、精神的にはせいっぱい協力している	55.2	52.2
必ずしも十分ではないが、仕事が忙しくてこれ以上は無理である	43.8	44.7
参加・協力する気持ちはあるが、実際にどうしたらよいかわからない	9.4	13.6
家事・育児は母親（妻）の役割と考えているので、参加や協力の必要はないと思う	4.4	17.7
妻がよくやっているから、自分は参加や協力をしなくてもよいと思っている	12.0	10.1
家事や育児に関心がなく、参加や協力の仕方もわからない	0.4	2.8
その他（)	2.5	2.5

表4 父親の役割遂行意識(%)

	非常によい		どちらかといえ ばよいよ		どちらかといえ ばよくない		非常によくない	
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親
父親として	11.0	28.6	67.5	57.8	19.4	12.7	1.3	0.6
夫として	12.8	28.9	61.3	59.9	22.9	9.8	2.0	1.0
社会人として	16.3	38.0	73.2	57.1	8.6	3.5	0.3	0.4
職業人として	24.8	51.7	65.6	45.2	7.6	2.1	0.4	0.4

もの」は9%と少ない。

職業人としての評価になると、更にその評価は高くなり、「非常によい」とするものは25%以上あり、非常に高い自己評価を行っている。

このような父親として、夫として、社会人として、職業人としての役割遂行に対する評価をみると、この事は当然かもしれないが、母親(妻)の評価は父親自身の評価よりかなり高いものがある。その差が最も少ない夫としての評価においても、2倍以上の妻が夫を「非常によい夫」としている。「どちらかといえばよくない」とするものも、妻の場合その事を肯定するものは夫よりはるかに少ない。

5. 父親(夫)の育児・家事に対する参加協力についての満足度

父親(夫)の育児・家事に対する参加協力についての母親(妻)の満足度をきいたのが表5-1~表5-7である。

「十分満足している」と答える母親(妻)は12%であり、「どちらかというば満足」が50%である。両者の合計が62%で過半数を占めているが、反対に「非常に不満」は3%と少ないが、「どちらかといえば不満」は23%とかなり多い。しかし、夫は妻の不満をより強いものと受けとめている傾向がみられ、「不満に思っていると思う」と答えたものが妻の答より16%も多い。という事は、夫が思っているほど妻は不満に思っていないという事である。

その満足、不満の理由についてみると、満足の理由としては、「十分参加協力してくれているから」というものは23%、「十分ではないが

精神的に支えてくれているから」「十分ではないが仕事が忙しくてこれ以上は無理なことが判っているから」という答が41%、43%と圧倒的に多い。その他、「十分ではないが、世間一般の男性と比べればよい方だ」と思うという答が35%みられる。この妻の満足の理由については、夫の答もほぼ同じ数である。

不満の理由としては、「参加や協力の時間や量が少ない」が60%近くで過半数を占めている。その他では、「もう少し家庭や子どもの事に関心を示して欲しい」というものや、「家事や育児をとおしての夫婦の話し合いやふれ合いが少ない」という答が多くみられる。夫も大体この事については理解しているようであるが、満足の理由についての理解に比べるとそのずれが大きい。とくに「夫の協力の仕方が下手である」という事に関しては、夫婦の認識には大きなずれがみられる。夫婦間の話し合いやふれ合いの不足については、夫婦の認識は一致している。

6. 父母の性役割に関する意識

最近では父母の性役割意識が非常に変化してきていると言われているが、今回の調査でも実際に育児や家事への父母の参加状況を見ると、明らかに大きな変化がみられる。表6は、この事について父母にきいたものである。

その結果は、「母親は家において育児に専念するのがよい」とするものが、父母共に予想外に多かった。父親の場合64%、母親は52%であり、「育児は母性だけの役割である」とするものが父親には19%もみられる。

その反対に、「男性も積極的に育児に参加す

表 5-1 父親(夫)の育児・家事に対する参加・協力についての満足度(%)

妻の満足度	人数	実数(%)
a 父(夫) 十分満足していると思う 母(妻) 十分満足している		70(6.9) 126(12.4)
b 父(夫) どちらかといえば満足していると思う 母(妻) どちらかといえば満足している		514(50.4) 621(60.9)
c 父(夫) どちらかといえば不満に思っていると思う 母(妻) どちらかといえば不満に思っている		371(36.4) 233(22.9)
d 父(夫) 非常に不満に思っていると思う 母(妻) 非常に不満に思っている		54(5.3) 28(2.7)
N.A. 父(夫) 母(妻)		11(1.1) 11(1.1)

表 5-2 満足と答えたものの理由〔父(夫)の答え〕(%)

N = 586 MA

実際に十分参加協力しているから	19.2 %
参加や協力は十分ではないが、精神的に支えているから	40.4
参加や協力は十分ではないが、仕事が忙しくてこれ以上は無理なことがわかっているから	38.2
参加や協力は十分ではないが、世間一般の男性と比べたら良いほうだと思っている	34.6
その他 ()	0.5

表 5-3 満足と答えたものの理由〔母(妻)の答え〕(%)

N = 747 MA

実際に十分参加協力してくれているから	23.2 %
参加や協力は十分ではないが、精神的に支えてくれているから	41.0
参加や協力は十分ではないが、仕事が忙しくてこれ以上は無理なことがわかっているから	43.0
参加や協力は十分ではないが、世間一般の男性と比べたら良いほうだと思う	35.0
その他 ()	0.8

表 5-4 不満と答えたものの認識〔父(夫)の答え〕(%)

N = 425 MA

参加や協力の時間や量が少ないと思っているようだ	65.2 %
参加や協力の仕方が下手だと思っているようだ	23.0
実際の参加や協力は無理でも、せめてもう少し家庭や子どもに関心を示して欲しいと思っているようだ	35.5
子どもが父親(あなた)になつからないことを心配しているようだ	2.8
家事・育児をとうしての夫婦の話し合いやふれあいが少ないことに不満をもっているようだ	34.4
その他 ()	3.3

表 5-5 不満と答えたものの認識〔母(妻)の答え〕(%)

N = 261 MA

参加や協力の時間や量が少ない	58.6 %
参加や協力の仕方が下手である	34.5
実際の参加や協力は無理でも、せめてもう少し家庭や子どもに関心を示して欲しい	42.1
子どもがご主人になつからないことが心配である	4.9
家事・育児をとうしての夫婦の話し合いやふれあいが少ないことに不満をもっている	34.5
その他 ()	3.8

べきである」とするものは父親の場合は非常に少なく18%であり、母親の41%を大きく下回っている。

つまり、この質問の結果からみると、まだまだ変化してきたとはいえ、従来から言われている「子どもの小さい時は母親が育児すべきである」という考え方は多くの人によって支持されているとみてよからう。しかし、同時に母親の多くは、その事は認めていても男性が積極的に育児に参加することを望んでいるのも事実であり、その点に関しての父母の間の意識のずれは極めて大きい。

7. 母親の育児不安

表7、表8は表にも示す如く、母親のもつ育児不安を、知能、言語、性格、集団生活、運動能力、才能、体の発達の8つの領域についてきいたものである。

その結果、最も多くの母親が不安をもって

るのは、子どもの「性格」についてである。その他では「集団生活」に関しての不安が多く、「言語」を除いて他は大体同じ程度のものである。

表8-1は、母親の育児不安を点数化し、その平均点を算出し、関連要因との関係をみたものである。

子どもの性別と育児不安との関連についてみると、4つの項目について有意の関係がみられる。(表8-2)その4つの項目全てにおいて男児の方が女児に比べると母親の育児不安得点は高い。

子どもの年齢別にみると、3つの項目に有意の関連がみられ、「言語」「性格」に関しては年少児の場合が、「集団生活」に関しては年長児をもつ母親の方が育児不安は強い。(表8-3)

子どもの人数別にみると、3項目に有意の関連がみられる。この場合も、「性格」「運動能力」に関しては子どもの人数の少ない母親に不安が

表6 父母の性役割に関する意識(%)

F = 1020 M = 1019

回 答	父 母 別	父 親 %	母 親 %
1. 子どもが小さいうちは母親は家において育児に専念するのがよい		64.3	51.7
2. 育児は女性だけの役割である		19.3	12.9
3. 妻だから母だからといって家事や育児にだけ専念していたのでは、人間として成長できない		27.3	21.2
4. 男性も積極的に育児に参加すべきである		18.2	40.9
5. 子どもに対する母親の愛情には父親といえどもかなわない		26.0	16.5
6. 母親の愛情が子どもにとって必ずしも望ましいとは限らない		11.1	9.5

表7 母親の育児不安(%)

	非常に不安である	少し不安である	あまり不安ではない	まったく不安はない	N.A.
知能について	11(1.1)	113(11.1)	494(48.5)	399(39.2)	2(0.2)
言語(言語の発達など)について	12(1.2)	78(7.7)	394(38.7)	52(5.1)	9(0.9)
性格(あきっぱい・わがままなど)について	28(2.7)	374(36.7)	480(47.1)	131(12.9)	6(0.6)
集団生活(保育園や幼稚園での生活)について	13(1.3)	219(21.5)	526(51.6)	256(25.1)	5(0.5)
運動能力について	33(3.2)	176(17.3)	472(46.3)	331(32.5)	7(0.7)
才能(歌や絵など)について	12(1.2)	148(14.5)	619(60.1)	231(22.7)	9(0.9)
健康について	16(1.6)	173(17.0)	527(51.7)	293(28.8)	10(1.0)
体の発達(身長・体重・体格など)について	12(1.2)	152(14.5)	429(42.1)	423(41.5)	3(0.3)

表 8-1 母親の育児不安と関連要因

N=1016

不安の領域	子どもの性別	子どもの年齢別	子どもの人数別	子どもの出生順位別	父親の職業別	親年齢別	両親との同居別
知能	**						
言語	**	*					
性格		*	**	**	*	**	*
集団生活		*	**	**			*
運動能力			**	**			
才能	**			**			
健康				**			
体の発達	*						

* P<.05 ** P<.01

表 8-2 性別

要因	性別	平均値	標準偏差
知能	男児	1.825	0.726
	女児	1.643	0.638
P<.01			
言語	男児	1.680	0.726
	女児	1.467	0.638
P<.01			
才能	男児	2.061	0.663
	女児	1.805	0.601
P<.01			
体の発育	男児	1.804	0.763
	女児	1.703	0.769
P<.05			

表 8-3 年齢別

要因	年齢	平均値	標準偏差
言語	3歳	1.862	0.937
	4歳	1.647	0.716
	5・6歳	1.553	0.663
P<.05			
性格	3歳	2.483	0.771
	4歳	2.395	0.738
	5・6歳	2.264	0.714
P<.05			
集団生活	3歳	2.034	0.850
	4歳	2.111	0.737
	5・6歳	2.264	0.708
P<.05			

表 8-4 人数別

要因	人数	平均値	標準偏差
性格	1人	2.439	0.738
	2人	2.323	0.691
	3人~4人	2.138	0.755
P<.01			
集団生活	1人	1.991	0.751
	2人	2.031	0.692
	3人~4人	1.849	0.741
P<.01			
運動能力	1人	2.019	0.828
	2人	1.944	0.780
	3人~4人	1.773	0.773
P<.01			

強くみられ、「集団生活」のみ2人の子どもをもつ母親の不安点が高くなっている。(表8-4)

出産順位別にみると5項目に有意の関連がみられ、この場合は全て第一子の母親の不安得点が高い。(表8-5)そして、その差も大きく、第一子の母親の不安の強さを表わしている。

父親の職業と母親の育児不安との関連をみたが、殆んど差はなく、僅かに「性格」に関する項目についてのみ差がみられた。(表8-6)公務員や会社員の妻である母親に比べ、自営業や自由業を夫にもつ母親の場合に子どもの性格に関し不安をもつものが多いという結果が出ている。

母親の年齢によって育児不安がどう違うかについてもみてみたが、僅か1項目にしか有意の関係はみられなかった。その1項目とは「性格」に関しての不安であり、若い母親の方がその事に不安を多くもっている。(表8-7)

祖父母など父母の親との同居が母親の育児不安とどうかかわっているかについてみると、あまり関連はなく、「性格」と「集団生活」の2項目に差がみられただけである。(表8-8)

表8-5 出生順位別

性 格	第1子	第2子以降	平均値	標準偏差
	第1子	第2子以降	2.420	0.712
			2.169	0.712
			P < .01	
集団生活	第1子	第2子以降	平均値	標準偏差
	第1子	第2子以降	2.609	0.731
			1.907	0.698
			P < .01	
運動能力	第1子	第2子以降	平均値	標準偏差
	第1子	第2子以降	2.073	0.826
			1.758	0.723
			P < .01	
才 能	第1子	第2子以降	平均値	標準偏差
	第1子	第2子以降	2.006	0.668
			1.877	0.618
			P < .01	
健 康	第1子	第2子以降	平均値	標準偏差
	第1子	第2子以降	1.984	0.716
			1.832	0.706
			P < .01	

そして、その両者共、同居家族の母親の不安得点が高い。

8. 育児不安と夫婦関係

次に、今回調査対象とした東京都内のA幼稚園児の母親310名について、育児不安と深いかかわりをもつ事が予想された夫との関係と育児不安について検討した結果を報告する。

調査対象の内訳は表9に示した。表10は、父親の育児・家事参加と母親の育児不安との関連をみたものである。この場合、父親の育児・家事参加得点については、参加の程度を4段階(全くしないを1~いつもしているを4)で得点化すると共に、20項目については因子分析を行い、子どもの身の回りの世話、社会化、教育、家事の4因子を抽出し、それぞれの参加協力点を算出したものである。又、母親の育児不安の場合も、不安を4段階(非常に不安を4~全く不安がないを1)で得点化し、4分位点でHigh群

表8-6 父親の職業別

性 格	平均値	標準偏差
会社員(管理職)	2.225	0.716
会社員	2.317	0.726
公務員	2.220	0.682
自営業	2.335	0.747
自由業	2.381	0.653
その他	2.556	0.711
		P < .05

表8-7 母親の年齢別

性 格	平均値	標準偏差
20歳台	2.543	0.761
30歳台	2.268	0.700
40歳台	2.181	0.794
		P < .01

表8-8 両親との同居別

性 格	平均値	標準偏差
核家族	1.969	0.700
同居家族	2.115	0.811
		P < .05
集団生活	平均値	標準偏差
核家族	1.969	0.704
同居家族	2.115	0.778
		P < .05

表9 調査対象

母親の年齢	平均	34.1歳			
将来	無職	267(86.4)	常勤	3(1.0)	パート 7(2.3)
	自営	16(5.2)	内職	13(4.2)	その他 4(1.3)
子どもの性別	男児	157(50.6)	女児	153(49.4)	
人数	1人	28(9.1)	2人	210(68.0)	
	3人	66(21.4)	4人	5(1.6)	

表10 母親の育児不安と父親の育児・家事参加

	育児不安得点		有意差
	High群 (n=59)	Low群 (n=64)	
家事・育児参加得点	9.44(1.65)	10.23(1.87)	*
子どもの身の回りの世話	2.40(.52)	2.50(.61)	
子どもの社会化	2.50(.86)	2.84(.84)	*
子どもの教育	2.72(.50)	3.00(.58)	**
家事	1.79(.51)	1.87(.51)	

注) 数値は MEAN, () 内の数値は SD * < P .05 ** P < .01

表11 母親の育児不安と不安を訴えたときの父親の態度

	n	育児不安得点
不機嫌になる、関心を示さない	(12)	5.99(1.63)
気が向くと相談にのる	(46)	6.15(1.23)
一緒に考えてくれる	(64)	5.86(1.23)
一緒に考え、かつ改善の努力をしてくれる	(182)	5.40(1.35)

F値 5.03 有意確率 .01

と Low 群に分けて育児不安と夫の育児・家事参加得点との関連をみたが、表に示す如く、子どもの教育に関する項目では不安得点の High 群と Low 群とでは、はっきりした差がみられ、参加得点の高い夫をもつ母親の場合は、育児不安得点は低く、その逆に参加得点の低い夫をもつ母親においては、育児不安得点が高くなっている。

表11は、母親が育児不安を訴えた時の父親の態度と母親の育児不安得点の高低との関連をみたものであるが、一緒に考えてくれる夫や一緒に考えかつ相談にのってくれる夫をもつ母親においては、育児不安得点は有意に低くなっている。

表12も、同じように夫婦関係と育児不安との

関連をみたもので、夫婦間の愛着関係の強弱と育児不安とは関連があり、愛着関係が強く、言いたいことが言いあえる夫婦や辛い時に助けあえる夫婦の場合、妻の育児不安得点は低くなっている。

以上の結果からみても、母親の育児不安の背景要因として、夫の育児・家事への参加協力という事や日常の夫婦関係などが深くかかわっている事は明らかである。

9. 母親の育児不安と日常不安

表13は、母親の育児不安と日常生活における精神的不安との関連について示したものである。この場合、日常の不安得点については

表12 母親の育児不安と夫婦間の愛着

	育児不安得点		有意差
	High群 (n=59)	Low群 (n=64)	
私たち夫婦は			
よく一緒にでかける	2.86(.79)	3.11(.81)	
一緒にいると心がなごむ	2.98(.62)	3.17(.72)	
言いたいことを言い合える	2.93(.76)	3.31(.73)	**
話をしている楽しい	2.95(.70)	3.19(.75)	
つらいとき助け合える	3.12(.69)	3.39(.78)	*
信頼し合っている	3.15(.58)	3.53(.71)	**
相手のためにできるだけのことをしたい	3.20(.55)	3.41(.71)	

注) 数値は MEAN, () 内の数値は SD * P<.05 ** P<.01

表13 母親の育児不安と日常不安

	育児不安得点		有意差
	High群 (n=59)	Low群 (n=64)	
日常不安得点	7.16(1.32)	6.03(1.37)	**
日常の虚しさ	2.19(.56)	1.63(.56)	**
日常生活の焦り	2.67(.52)	2.17(.67)	**
主婦役割への否定的意識	2.26(.52)	1.67(.55)	**

注) 数値は MEAN, () 内の数値は SD * P<.05 ** P<.01

度を実施し、因子分析した結果抽出された3つの因子(日常の虚しさ、日常生活の焦り、主婦役割への否定的意識)について得点化したものである。その結果からも母親の日常生活における精神的安定というものが、育児不安にも大きなかかわりをもっていることが判る。もちろん、この場合、育児不安が逆に日常不安を強める事になっているとも考えられ単純に育児不安が母親の精神的不安定によってもたらされたものとみることにはできない。むしろ、両者が互いに作用し合って不安を強めているとみるのが妥当であろう。

10. おわりに

3年間にわたり、父親の育児・家事参加と母親の育児不安を中心に調査研究を行い、現代の

家庭における父母の養育態度の実態についてある程度明らかにする事ができたと思う。父母の役割分担においても大きな変化がみられ、父親の育児・家事に対する参加は、そのことを多くの人々が当然とするようになってきている。そして、同時に母親の多くがもつ育児不安の解消についても、父親(夫)の参加協力が大きな働きをなしている事も判った。しかし、まだまだ現在の家庭において子どもの養育における役割分担が円滑に行われているわけではなく、夫婦の間の意識のずれも大きいものがあり、その調整は大きな課題といえよう。父母の間の役割分担の明確化とその円滑な遂行という事は、保健指導の場においても、今後ますます強力に行われねばならぬはずである。そして、その事は育児の円滑化にぜひ必要なことなのである。

Abstract

Study on Formation of Parental Attitudes on Infant Rearing and Its Evaluation Report III

—Parental Role Share and Mothers' Anxieties about Childcare—

Taneaki Takahashi, Akira Takano,
Kaname Komiyama, Sachie Shindo,
Masami Ohinata

As the study for this year we made a survey through questionnaire of the actual conditions of parental role share in domestic affairs and childcare in the family, of the awareness of sex role and mothers' anxieties about childcare on about 1,000 parents of the children of Kindergarens and day nurseries in Tokyo Metropolis, Kanagawa and Akita Prefectures.

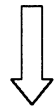
The results of the survey made clear that in the families of present Japan, a big change was seen in parental role share and the awareness of sex role. At the same time, the results revealed such a fact that fathers' attitudes of participating, cooperating in, understanding and supporting domestic affairs and childcare were largely acting as the background factors in mothers' anxieties about childcare.

It is also found that wives show considerably good understanding of their husbands' tasks and positions in their families.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 今年度は、幼稚園児と保育園児の父母を対象に、質問紙により、家事、育児など家庭における父母の役割分担の実態、性役割意識、育児不安などに関する調査を実施し、その実態を知ると共に、それらのものが背景要因とどのような関連をもっているかについて調べた。調査対象は、東京都、神奈川県、秋田県の3都県の6ヶ所の幼稚園と8ヶ所の保育園の父兄約1,000名である。

その結果、現在のわが国の家庭では、父母の役割分担や性役割意識に大きな変化がみられる事が判明した。着実に新しい男女平等の思想に基づいた家庭が築かれつつある事が、今回の調査結果にもはっきり示されている。夫婦の間においては、母親(妻)が父親(夫)の家庭や社会における働きや立場を前向きに理解している。又、母親の育児不安の背景要因としては、子どもの側の条件だけでなく、夫婦関係というものが非常に大きな働きをなしている。